

(平成 29 年 12 月試験研究業務月報)

試験研究課題：加工用キャベツの長期安定出荷技術の確立

研 究

加工用キャベツにおける省力施肥試験の実施

丹後地域で導入が進む加工用キャベツは、実需者から 4～5 月の出荷を強く求められていますが、これまで地元でほとんど栽培実績がありません。

そこで当センターでは、栽培面での支援として、降雪前に肥効調節型肥料※施用することで、気象条件により作業が左右される追肥の回数を減らす施肥技術の開発を進めています。

今年度は、低温や冠雪の影響を受ける越冬条件下で、キャベツがどのように窒素を吸収するかを把握する試験をしており、丹後地域に適した肥料を選定していきます。

※肥効調節型肥料：肥料成分をコーティングするなどして溶出速度を調節した肥料。一度の施肥で長期間効果がある。溶出の仕方やスピードが異なる様々な種類がある。



各種肥料の窒素溶出量を調べる埋設試験



4 月穫り栽培の状況（12 月 20 日）